

2025年度  
自己点検・評価報告書

学校法人ルーテル学院

目標	2025 年度評価
<b>1 教育(学部)</b> 1) 心と福祉と魂の高度な専門家を養成するカリキュラムとして、総合人間学科目群をはじめ、総合人間学実践科目群、総合人間学キャリア形成科目群等を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>心と福祉と魂の高度な専門家の養成を目指すカリキュラムとして、各科目群を提供し、専門性の獲得を目指した。</li> <li>2023 年度以降の新入生については、新カリキュラムとして、社会福祉学系及び臨床心理学系を提供しており、専門性の獲得を目指した。</li> <li>各国家資格の受験資格取得に対応したカリキュラムを提供し、さらに資格取得を支援する科目を提供した。</li> <li>2025 年度より学生募集を停止したため、教養科目において、初年次教育は行われなかったが、在学生が包括的な人間理解を深めるために、教養必修科目および教養選択科目を継続して提供した。</li> </ul>
2) 学生の学力の把握と学力に合わせた支援体制を検討し、実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生アドバイザーは、年度当初及び後期開始時に面談を実施した。共に単位の取得状況をふまえた面談とし、履修指導をはじめとする学修の相談に応じた。</li> <li>上記以外にも必要に応じて担当する学生の相談に適宜対応した。</li> </ul>
3) 学習成果の把握・評価を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ソーシャルワーク実習指導」「心理実習」等において、ルーブリック評価を導入しており、それぞれの実習での学びの向上に向けた取り組みを行った。</li> <li>2024 年度に卒業論文の執筆要領及び評価表について検討を行い、要領等の統一化を図った。これを 2025 年度の講義要項に掲載し、学生への周知をはかり、運用した。</li> </ul>
4) 国際交流関係機関などと連携して、学際的な学習及び異文化理解を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026 年 2 月、(公財) JELA 主催のインドワークキャンプへ、学生 1 名の参加を支援した。</li> <li>国際交流関係機関と連携して、語学留学、国際交流関係の情報を学生に伝達した。</li> </ul>
<b>大学院</b> 1) 高度な専門職の養成、及び、教育研究ができる人材を養成する教育課程を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉学専攻博士前期課程においては、基礎研究科目、専門科目、専門演習、実習等の科目を体系的に提供し、高度な専門職を養成した。</li> <li>社会福祉学専攻博士後期課程においては、専門研究指導科目、専門研究演習科目等を体系的に提供し、専攻分野において、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力のある人材を養成した。</li> <li>臨床心理学専攻修士課程においては、基礎研究科目、実習、特別研究、専門科目を体系的に提供することを通じて、臨床心理士および公認心理師に対応した科目を提供し、高度な専門職を養成した。</li> </ul>
2) 各専攻、課程に適切な内容の授業と研究指導を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉学専攻博士前期課程においては、事例検討やロールプレイ等も行う授業も提供し、修士論文執筆のための論文指導もした。</li> <li>臨床心理学専攻修士課程においては、事例検討やロールプレイ等も行う授業を提供し、修士論文執筆のための論文指導もした。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉学専攻後期課程において、専門研究指導科目、専門研究演習科目、社会福祉学学生指導法（プレFD）科目等を提供することにより、コースワークとリサーチワークを提供し、かつ、博士論文執筆のための論文指導をした。</li> </ul>
	3)学位授与方針で示した学習成果を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学院の社会福祉学専攻および臨床心理学専攻の、博士後期課程、博士前期課程、修士課程各課程において、学位授与方針で示した学習成果を把握するための評価票を新たに作成し直した。そして、それを学生に記入させ、各専攻において記入された内容を確認して学習成果を把握し、学生にも専攻としての評価を伝え、指導に活かした。</li> </ul>
<b>2 研究と地域 貢献</b>	1) 教育理念に基づき、社会や地域の実態を把握し、ニーズに応える研究や地域貢献活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き学内研究助成金の募集を実施した。</li> <li>・ 三鷹市が市内の産官学の事業所等で構成する三鷹スクール・コミュニティに参画した。</li> <li>・ 将来構想委員会により、附属研究所等の統合や事業の検討をした。</li> </ul>
<b>3 学生支援</b>	1) 学生が元気に健やかにたくましく学生生活を送れるように支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生アドバイザーによる年 2 回の個別面談では成績に加えて生活面についても状況把握をし、必要に応じて本人了解の上で関係部署と情報共有をした。</li> <li>・ 学生相談室、健康管理室、学生サポート委員会、学生支援センターは必要時に連携した対応を行い、学生が健康に、安心して学べる環境を整えた。</li> <li>・ 適宜、学内・学外奨学金の募集情報をポータルより案内した。</li> <li>・ 今年度から所得制限のない多子世帯への授業料減免制度が始まり、漏れのないよう繰り返し周知することにより前期 6 名、後期 4 名が新規に採用された。</li> <li>・ 正田久子氏の遺贈を財源とした、「ルーテル学院奨励奨学金及び学会発表旅費支給制度」を新設した。</li> <li>・ 論文検索の方法や図書館サービスについて図書館主催ガイダンスを 4 回開催し、また図書館を利用した授業および課題への支援を行った。</li> <li>・ 図書館を魅力的な場所として捉えてもらえるよう、図書館内展示や新着資料展示を行った。</li> <li>・ 図書館を利用中の学生に対し、論文執筆の資料検索や論文の書き方などのレファレンス業務を積極的に行った。</li> <li>・ 障がい学生支援委員会を開催し、各部署と連携し、合理的配慮の決定、モニタリング、交流会実施、啓発等を行った。</li> <li>・ 各学期開始時に、関係教職員へ配慮願い、情報共有を行い、個別のケースに対応した。</li> </ul>
	2) 教職員で連携して、本学が育てる人材に相応しいキャリア支援・資格取得支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員 7 名、職員 3 名で構成する「就職進路支援委員会」を組織し、年間を通して、進路活動状況や各種ガイダンス等の支援プログラムについて情報共有を行った。</li> <li>・ 少人数教育の特性を活かし、個別面談において、学生一人ひとりの就職、進学についての動向把握に努め、希望や適性に応じた情報提供を行った。</li> <li>・ 週 1 回来校するキャリアカウンセラーと連携し、継続的なキャリア支援を実施し</li> </ul>

		<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育士試験対策講義「保育士特講Ⅰ・Ⅱ」には16名、社会福祉士試験対策講義「社会福祉特講A」には8名、大学院進学支援講義「臨床心理特講」には11名の学生が履修・受講した。</li> <li>・ 2026年2月4日に「公務員試験・社会福祉協議会対策講座」を開催した。主に地方公務員（福祉職）および社会福祉協議会への就職を希望する学生を対象とし、計4名が参加した。</li> <li>・ 社会福祉士の試験対策としては、外部講師を招聘した受験対策講座も開催し、8名の学生が参加した。</li> <li>・ 年間を通じて、テーマ別就職進路ガイダンス（5回）、公的機関や民間企業による求人紹介型の個別相談会（3回）、企業・法人を招いた合同説明会（2回）、動画配信による就活講座や適職診断テスト等を実施し、プログラムの充実を図った。延べ49名の学生が参加した。</li> <li>・ キャリアカウンセラーによる個別相談は、前期15名、後期22名、合計で延べ37名の相談があった。また、就職活動解禁に合わせ、春休み期間（2～3月）にもキャリアカウンセラーによるキャリア相談を6回実施し、就職活動を支援した。</li> <li>・ キャリア支援に関する講義「キャリアデザイン基礎・実践」を、33名の学生が履修・受講した。</li> <li>・ インターンシップについては、学生の希望や要望に応じて、専任教員（学生アドバイザー）による個別面談やゼミを通じて積極的に勧めた。現在はインターンシップ科目が設置されていないため、年2回法務省が主催する人間科学系体験プログラム（法務教官・法務技官）を中心に積極的な周知を行った。その結果、夏季に1名、春季に1名が応募し、いずれも採用された。</li> </ul>
4 教育研究環境・設備	1) 教育研究環境の整備を計画的に行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉士の国家資格取得を目指す学生のために、スタディールームを設け、開放した。</li> <li>・ FD研修会で「公的研究費不正防止について」をテーマに、研修を行った。</li> <li>・ 本館改修・インフラ工事の計画を行った。2026年3月より工事を実施する。</li> </ul>
	2) 学術情報基盤の整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『ルーテル学院研究紀要』とその継続前誌（『神学季刊』など）全てのバックナンバーについて、リポジトリにて公開した。</li> </ul>
5 組織運営	1) 適切な教員・職員組織の編成とそれに基づく運営を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生募集停止の決定に伴い、在学生が卒業するまでの教育体制、とくに専任職員の登用など事務組織体制を整備した。</li> <li>・ 校務分担を2グループにするなど大きく変更した。人数が少なくなった中でも委員会等滞りなく運営した。</li> <li>・ 職員の欠員に対して、パートタイム職員を専任職員に登用するなどして、適切な業務分掌となるよう体制を見直した。</li> </ul>
	2) 適切な教員・職員の研修を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 以下の5テーマで4回の研修会を実施した。 「障がい学生の学びの保障に向けて」、「単位取得支援対応オンデマンド授業の録画録音について」、「個人情報保護について」、「公的研究費不正防止について」、「建学</li> </ul>

		<p>の精神について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修費の補助を拡大し、職員の自己研鑽等に活用した。</li> </ul>
	3)大学のブランドを維持する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『ルーテル学院だより』(年2回発行)およびInstagramにおいて、在学生や卒業生の活躍に焦点を当てた記事を掲載し、大学のブランドを維持した。</li> <li>・ クリスマス・オルガンコンサートを開催し、学院に関心を集める活動を行った。</li> </ul>
<b>6 財務</b>	1)閉学までの確実な財務運営を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資金運用規程において、運用の幅を持たせる改正を行った。</li> <li>・ 2026年度募集の科学研究費に3名応募した。2025年度は、4名が採択されている。</li> <li>・ 定例の後援会推進委員会、全国世話人代表会を対面で行うなど、学院と支援者をつなぐ活動を推進した。</li> </ul>
<b>7 内部質保証</b>	1)内部質保証のシステムを運用する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的に委員会を開催した。中期計画で定めた目標や行動計画の進捗状況、達成状況を把握した。</li> <li>・ 自己点検・評価報告の実施、教員職務の総合的点検、授業評価アンケートを実施した。</li> </ul>
	2)自己点検・評価を継続して実施し、必要な情報公開を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己点検・評価報告書、授業評価アンケート集計結果をHPで公開した。</li> <li>・ 卒業生に対して卒業時アンケートを実施し、公表した。</li> </ul>